

平成30年度第2回 学校評議員会・学校関係者評価委員会の実施報告

学校名 岐阜県立揖斐特別支援学校
校 長 多和田 浩一
所在地 揖斐郡揖斐川町谷汲深坂2760 電話 0585-56-0050

1 会議の名称

岐阜県立揖斐特別支援学校 学校評議員会

2 会議の構成

学校評議員（敬称略）

村瀬 克己	谷汲公民館館長
嵯峨崎 泰輔	株式会社サン・シング東海
立木 一美	J A岐阜厚生連 揖斐厚生病院 主任言語聴覚士
古野 幸博	谷汲地区民生委員副支部長
岩井 順子	揖斐川町手をつなぐ親の会

【学 校】

多和田浩一	（校 長）	木下 香居	（P T A会長）
高木 秀樹	（教 頭）	早坂 英主	（小学部主事）
河合 均	（中学部主事）	森 敦士	（高等部主事）
由井真紀子	（教務主任）	杉山 茂樹	（事務長）

3 会議の目的

学校運営等について関係諸機関や地域住民から幅広く意見を聞き、地域社会から支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。

4 開催期日と内容

第2回 平成31年2月7日（木） 「授業参観と学校への提言について」

5 会議の概要

- (1) 学校長挨拶・本日の日程説明
- (2) 授業参観
 - ・各委員会の様子
 - ・小学部学年集会の様子
- (3) 各学部の児童生徒による発表
 - ・高等部・・・作業製品の説明
 - ・小学部、中学部・・・一年間で頑張ったことを2～3名の児童生徒が発表
- (4) 学校関係者からの評価
- (5) 事務連絡

6 意見交換

- ・全体的に先生と子ども達と同じ方向を向いて頑張っている。先生方のサポートが生きている証拠である。
- ・子ども達に元気と明るさがある。先生方が子ども達ができるまで、慌てることなくしっかり「待つ」ことができています。
- ・入退出の挨拶がしっかりできている。委員会などの発表でも自分の言葉で話すことができています。
- ・作業作品の完成度が高い。昔の製品と違って特に「さをり織り」を用いた製品は素晴らしい完成度である。
- ・子ども達個々には差があるので、教え方を相当研究してみえると思われる。行事などを見ていると内容が良く工夫され、それぞれの子どもに合った発表が素晴らしかった。
- ・行事などで、子ども達が自ら率先して行動している姿が印象的であった。
- ・学校が全体的にまとまっている。子ども達の姿を見ているとやらされている感がない。
- ・昔進路で悩んでいる保護者が当校に入学して良かったというのを聞いている。
- ・今回、委員会活動を参観することができて良かった。初めてであったので、こういう形も良いと思う。是非他の保護者の方にも参観の場を作っていただきたい。
- ・企業でも障がい者といって区別することなく、悪いときはしかり、良いときは褒める。自分自身を認めてくれていると感じさせることが大切である。
- ・先生方の連携はどのように行っているか
 - 職員室で絶えず情報交換を行っている。また、朝の朝会で連絡を取り合っている。
 - 教員の年齢構成が30歳代までがほぼ半数で有り、フレンドリーであるが、舵取りがいない状態である。やはり、ベテランの助言は必要であるため、「運営会」を立ち上げ、情報交換等を行っている。
 - 生徒全員のことを全員の教員が知っていることを目標としている。誰が指導しても同じ指導を行えるようにしている。
- ・卒業後の支援はどのように行っているか
 - 3年間を支援していく。特に1年目は職場へ赴き現状を把握している。
- ・ヒアリハットの研修は行っているか。
 - 職員会議で詳解している。今後は校内LAN等を活用したい。
- ・特支の課題は何か。
 - 教員の専門性である。当校は、現在4人に1人位が特支の免許を保有していない。準ずる教育を行っているのに特支のことだけ分かっていたら良いかという問題もある。

7 会議のまとめ

おおむね学校の教育活動についてはご理解をいただけたと感じている。しかし、教員の専門性や、社会へ出てからの問題についてもこれから考えていかななくてはならない。

いただいた意見・感想等を生かして、今後も教職員が一丸となって、教育活動に取り組んでいきたい。